

令和8年度大阪大学大学院

大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学 連合小児発達学研究科（博士前期課程） 学 生 募 集 要 項

教 育 目 標 及 び 各 ポ リ シ ー

【 教育目標 】

大阪大学は、「知の創造、継承及び実践」を使命とし、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、学問の独立性と市民性を備えた世界水準の高度な教育研究を推進し、次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを目的とします。

その目的の実現のため、研究科及び全学的な教育組織において、

- 最先端かつ高度な専門性と深い学識
- 高度な教養
- 高度な国際性
- 高度なデザイン力

を身につけた知識基盤社会のリーダーとなるべき人材の育成に取り組んでいます。

大阪大学の教育目標を受けて、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科では、医学、心理学、保健学/看護学、教育学及びそれらを基盤とする学際領域を対象とし、国際的視点も有する教員、研究者が各々の専門領域を超えて連携し、文理融合型の共通したプラットフォームを用いて教育にあたり、異なる出身履歴を持つ学生が共に学び研究することにより、真に学際的で、柔軟な発想のもと、「子どものこころの障がい」に、最先端かつ高度な専門性と深い学識をもって対応でき、国内外の社会の新たな要求にも応えうるリーダーたる研究者・指導者層、高度専門家の育成を目指しています。

【 ディプロマ・ポリシー 】

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所属研究科において定める専門分野に関する知識・技能、教養、国際性及びデザイン力を身につけ、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で審査及び試験に合格した学生に学位を授与します。

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科では、以下を身につけた学生に、修了要件に基づき審査等を行い、学位「修士（小児発達学）（Master of Science in Child Development）」を授与します。

- （１）「子どものこころと脳発達及びその障がい」に関する幅広い知識・技能と、課題解決にその知識・技能を活用できる学識
- （２）子どものこころの課題の解決に対して、経験則にとらわれない、様々な背景に基づく知識と客観的に評価できる科学的視点
- （３）社会・学問における課題に対し、解決の道筋を構想することのできるデザイン力
- （４）協調性・柔軟性を有し、現在の社会の要求に応えうる力
- （５）幅広い知識と国際性及び教養

【 カリキュラム・ポリシー 】

大阪大学は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、専攻分野に関する科目並びに高度教養教育及び国際性涵養教育に関する授業科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた授業と

優れた研究指導を行います。また、試験や審査などにより学修成果を厳格に評価します。

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科では、異なるバックグラウンドを持つ学生に文理融合プラットフォームによる教育を実施し、文化を超えた世界的課題でもある「子どものこころの障がい」に対応できる視野と基礎知識を身につけ、また、専攻分野に関連する諸領域の学識及び基礎的研究技術を修得できるよう指導を行います。

授業は、基礎学力を担保するための講義形式の科目、支援や研究の現場において研究技法を学び、実際の研究へと応用できる技術の修得を目指す実践的な科目、研究の現場で、論文作成について学ぶ科目からなります。他大学で開講される科目はTV会議システムを活用し受講します。

【アドミッション・ポリシー】

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、学士課程又は修士課程・専門職課程における学修を通して、確かな基礎学力、専門分野における十分な知識及び主体的に学ぶ態度を有し、自ら課題を発見し探求しようとする意欲に溢れる人を広く受け入れます。このような学生を適正に選抜するために、研究科・専攻等の募集単位ごとに、多様な観点からの評価を行います。

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科では、強い学習意欲と優れた学力を有し、かつ、子どものこころの課題の解決に対して強い使命感と真摯な姿勢を持った以下のような人材を求めています。

- (1) 子どものこころの課題に関して明確な目的意識を持ち、科学的な対処法の発見により我が国の未来に貢献しようという高い志を持つ人。
- (2) 経験則にとらわれず、異なる背景の専門家に対してもオープンな姿勢を保ち、科学的視点を持つことを希求する人。
- (3) 高い学習意欲を持続し、自立的・意欲的な問題解決能力を有する人。
- (4) 子どものこころの課題に対し、協調性・柔軟性のある思考ができ、社会性を備え、社会的弱者に対して深い共感性と洞察力をもって接することができる人。

また、入学選抜の基本方針として、統一した入学試験を以下により行います。

①外部の外国語（英語）試験スコア等の準用

外部の外国語（英語）試験のスコア等を準用し、学術論文の読解に必要な素養等を考査します。

②口述試験

将来どのような姿勢で子どものこころの課題に取り組むのか、また、同問題に関する意欲、熱意、将来性を評価すると同時に、子どものこころの課題に関する基礎知識のレベル、コミュニケーション力、論理的思考力等を考査します。

1. 専攻及び募集人員

専攻：小児発達学

募集人員：15名

講座名	受入数
こころの発達神経科学講座（大阪大学）	3名
こころの相互認知科学講座（金沢大学）	3名
こころの発達健康科学講座（浜松医科大学）	3名
こころの認知行動科学講座（千葉大学）	3名
こころの形成発達科学講座（福井大学）	3名

※ 各講座（大学）への受入数は、目安として設定しているものです。

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 大学又は専門職大学を卒業した者又は 令和8年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者又は 令和8年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者又は 令和8年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者又は 令和8年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学も含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和8年3月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（*1）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（*2）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和8年3月までに授与される見込みの者
*1 その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。
*2 当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。
- (7) 専修学校の専門課程（修業年数が 4 年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は 令和8年3月までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）
- (9) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、本研究科における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの【「3. 出願資格審査」参照】
- (10) 大学又は専門職大学に 3 年以上在学し、本研究科において所定の単位を優秀な成績で修得したと認められたもの【「3. 出願資格審査」参照】
- (11) 外国において学校教育における 15 年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの【「3. 出願資格審査」参照】
- (12) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和8年3月31日までに 22 歳に達するもの【「3. 出願資格審査」参照】

注）出願資格（1）（10）（12）の「大学」「専門職大学」とは、学校教育法第 83 条の定める日本国内の大学、専門職大学を示す。

3. 出願資格審査

上記出願資格の（1）～（8）のいずれにも該当しない者は、事前に出願資格審査を受け、出願資格審査に合格する必要があります。

（1） 出願資格審査日程等

① 受付期間

【第1回入試】 令和7年 6月16日（月）～ 6月27日（金）

【第2回入試】 令和7年10月20日（月）～10月31日（金）

② 書類の受付場所

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2

大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当（電話06-6879-3026、3445）

※ 郵送（簡易書留）の場合は、第1回入試は令和7年6月27日（金）、第2回入試は令和7年10月31日（金）までの消印のあるものに限り受付期間後の到着でも受理します。

※ 持参される際の受付時間は、8時30分～12時00分、13時00分～17時15分の間としています。（土・日・祝日を除く。）

（2） 出願資格審査必要書類

所定様式は、本研究科ウェブサイトよりダウンロードしてください。

(<http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/>)

① 出願資格審査申請書（所定様式）

② 受験票・写真票（所定様式）

③ 研究計画書（志望理由書）（所定様式）

④ 研究業績調書（所定様式）（研究歴のない方は必要ありません。）

⑤ 研究論文（研究歴のない方は必要ありません。）

⑥ 出身学校の卒業証明書及び成績証明書

⑦ 実務経験の期間を証明する在職期間証明書

⑧ 返信用封筒（定型封筒（長形3号）に320円分の切手貼付・受験票送付用）

※ 受験票は、第1回入試は令和7年7月7日（月）頃、第2回入試は令和7年11月10日（月）頃に到着するように発送する予定です。

※ 第1回入試は令和7年7月10日（木）、第2回入試は令和7年11月13日（木）時点で受験票が到着していない場合は、大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当（電話06-6879-3026、3445）へ必ず連絡してください。

※ 改姓（改名）により、卒業証明書及び成績証明書等の氏名が異なっている場合は、変更の事実を証明できるものを同封ください。（受験票送付の際に返却します。）

（3） 出願資格審査面接試験

① 日時：【第1回入試】令和7年7月17日（木）13時30分～

【第2回入試】令和7年11月20日（木）13時30分～

※時間は変更となる場合があります。

② 場所：志望する研究領域が置かれている大学で実施

〔大阪大学〕 医学部医学科共通棟に集合

医学部の所在地は、以下を参照願います。

(<https://www.med.osaka-u.ac.jp/access/access>)

〔金沢大学〕 宝町キャンパス医薬保健学域医学類B棟1階小会議室に集合

医学類B棟の所在地は、以下を参照願います。

(<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/campus-guidance/map>)

〔浜松医科大学〕 附属病院棟（外来棟）5階子どものこころの発達研究センターに集合

附属病院棟（外来棟）の所在地は、以下を参照願います。

(<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/campusmap.html>)

〔千葉大学〕 亥鼻キャンパス医薬系総合研究棟Ⅱ期棟7F 710号室に集合

研究棟Ⅱ期棟の所在地は、以下を参照願います。

(<https://www.m.chiba-u.ac.jp/class/rccmd/outline/access.html>)

〔福井大学〕 松岡キャンパス看護学科棟3階
大学院講義室に集合

松岡キャンパスの所在地は、以下を参照願います。

(https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/data/access/)

※ 面接を受けない場合、出願資格審査は不合格となります。

※ 各研究領域の研究内容については、P.10「連合小児発達学研究科の概要」を参照してください。

(4) 出願資格審査合格者発表

【第1回入試】令和7年 8月12日（火）13時30分

【第2回入試】令和7年12月 8日（月）13時30分

※ 本研究科ウェブサイトに出願資格審査合格者の受験番号を掲載するとともに、出願資格審査可否通知書を送付します。電話での可否の照会には一切応じません。

(<http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/>)

4. 出願書類等

【出願書類に関する注意事項】

- ・ 本研究科所定の出願書類（＊ 印）は、本研究科ウェブサイトよりダウンロードしてください。
(<http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/>)
- ・ 本研究科所定様式は、A4サイズの白い普通紙に片面印刷してください。
- ・ 書類はすべて原本を提出してください。
- ・ 提出された書類は返却しません。
- ・ 第1回入試不合格者で、第2回入試に出願する場合は、全ての出願書類を改めて提出する必要があります。第1回入試の出願書類を流用することはできません。

・入 学 願 書	《本研究科所定の様式 ＊》 検定料納入システムから「検定料収納証明書」を出力し、提出してください。
・受 験 票（※1） ・写 真 票	《本研究科所定の様式 ＊》 ・出願前3ヶ月以内に撮影した志願者の写真2枚を本学所定の用紙に貼付してください。
・研究計画書（志望理由書）	《本研究科所定の様式 ＊》 ※ 本研究科ホームページからダウンロードした用紙に記述して提出することもできます。
・卒業（見込）証明書 （※2、3）	・出身大学長等が作成したもの。 ※ 外国人留学生は、その他学位を証明する書類が必要になる場合があります。
・成績証明書（※2、3）	・出身大学長等が作成して厳封したもの。

・ 外部の外国語（英語）試験のスコア等	・ 《本研究科所定の様式 *》 ・ 本学所定の用紙「外部の外国語（英語）試験のスコア等（表紙）」に外部の外国語（英語）試験のスコアレポート、又は合格証明書等（原本及び写し1部）を添付し、ご提出ください。添付の上は、左上をホチキス留めしてください。なお、原本については後日返却いたします。 ※ 外部の外国語（英語）試験 Cambridge English、GTEC、GTEC CBT、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT、TOEIC L&R、TOEIC S&W、英検、英検CBT（令和3年3月以前の日付のもの）、英検S-CBT（令和3年4月以降の日付のもの）（※自宅受験のスコアは対象外です。<u>但し、TOEFL iBTの自宅受験については対象とします。</u>） ※2026（令和8）年度に実施する入学試験（2027年4月入学）より、対象となる外部外国語（英語）試験のスコアの取扱いを次の通り変更します。 対象試験：TOEFL-iBT（自宅受験を含む）、TOEIC L&R、TOEIC S&W、IELTS スコアの有効日：当該入試の2年前以降の日付のスコアのみ有効とする。 ※ 出願時に証明書類を添付できない場合には、提出予定日を記載した上記用紙を提出してください。 なお、後日スコア等を提出する際も上記用紙に添付の上、提出してください。 <u>スコア等は、原則、出願時の提出ですが、外部試験の結果発送の日程によっては、本試験当日に持参いただき、受付窓口で提出することも可能です。</u> <u>また、この場合は、事前に研究科事務担当までご連絡ください。</u> ※ <u>本試験当日までにスコア等を提出できなかった場合、口述試験は受験できませんので、事前に手元に届く日を確認してください。</u>
・ 受験許可書（入学承諾書）	《本研究科所定の様式 *》 ・ 出願時において、官公庁、研究所、企業、病院等に勤務し、入学後もその職を有する者（社会人入学の者）
・ 在留カードの両面コピー（該当者のみ）	・ 既に渡日し、住民登録を行っている外国籍の者（特別永住者以外）は、在留資格、在留期間が記載されたものを提出してください。
・ 国費外国人留学生証明書	・ 国費外国人留学生の者
・ 検定料納入証明書(※4)	《本研究科所定の様式》 検定料納入システムから「検定料収納証明書」を出力し、提出してください。
・ 検 定 料 (※4、5)	・ 検定料 30,000 円を「検定料納入システム」により納入してください。納入後、「検定料納入システム」から、「検定料収納証明書」を出力のうえ提出してください。 ○検定料納入システム https://e-apply.jp/n/osaka-u-payment (検定料納入時にシステム手数料が別途かかります。) *検定料納入システムの使用方法、検定料納入期間については、本研究科ホームページを参照してください。 *国費外国人留学生として入学する者は、検定料は不要です。

・宛 名 票	≪本研究科所定の様式 ＊≫ ・入学手続き関係書類の送付等、大学からの連絡に使用します。 ・重要書類は書留郵便等にて送付しますので、確実に受け取りが可能な住所を記入してください。 ・宛名票には、確実に受け取りが可能な住所を記載し、出願後に住所変更等がある場合は速やかに大阪大学連合研究科担当に連絡してください。
・受験票発送用封筒	≪本研究科所定の様式 ＊≫ ご自身で用意した定型封筒（長形３号）の表に、本研究科所定の「受験票送付用封筒ラベル」と、320円分の切手を貼付してください。
・出願書類チェックリスト ・出願書類送付用封筒	≪本研究科所定の様式 ＊≫ 署名のうえ提出してください。 ≪本研究科所定の様式 ＊≫ ご自身で用意した定型外封筒（角形２号）の表に、本研究科所定の「出願書類封筒ラベル」を添付し、出願書類を全て入れてください。

- ※1 受験票については、第1回入試は令和7年9月1日（月）、第2回入試は令和8年1月7日（水）に特定記録郵便で発送する予定です。
- ※2 改姓（改名）により、卒業証明書、成績証明書等の氏名が異なっている場合は、変更の事実を証明できるものを試験開始前に提示してください。
- ※3 出願資格審査を受けた者は、卒業証明書、成績証明書等を再提出する必要はありません。
- ※4 国費外国人留学生として入学する予定の者については、検定料納入証明書の提出及び検定料は不要です。
- ※5 大阪大学ホームページに記載している災害により被災した志願者に対し、検定料免除の特別措置を講じます。
<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/admissions/information>
 詳しくは上述ホームページを確認してください。この場合の出願については本要項に記載の連絡先に問い合わせてください。

5. 出願方法及び注意事項

入学志願者は、出願書類を取りそろえ、大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当へ持参又は郵送（簡易書留）してください。

願書受付期間：【第1回入試】令和7年 8月13日（水）～ 8月25日（月）（土・日を除く）
 【第2回入試】令和7年12月9日（火）～12月22日（月）（土・日を除く）

持参の場合の窓口受付：各日 8時30分～12時00分、13時00分～17時15分

郵送の場合の送付先：〒565-0871 吹田市山田丘2-2

大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当

- ※ 郵送（簡易書留）の場合は、第1回入試は令和7年8月25日（月）、第2回入試は令和7年12月22日（月）までの消印のあるものに限り受付期間後の到着でも受理します。
- ※ 志願者は出願に先立ち、下記期間中に研究科の概要（P10～P15）を参考に、志望する各研究領域の事前面談申込先に連絡をとり、事前面談を必ず受けてください。なお、事前面談に際しては各校所定様式を事前にメール等により提出してください。但し、出願資格審査を受ける者は、事前面談を受ける必要はありません。（出願資格審査を受けて修士修了同等である旨合格した者でも、出願資格審査を受けた大学（研究領域）とは違う大学（研究領域）で本入試を出願する場合は、事前面談を受ける必要があります。）

入試事前面談受付期間：【第1回入試】令和7年 6月16日（月）～ 8月15日（金）（土・日・祝日を除く）
 【第2回入試】令和7年10月20日（月）～12月10日（水）（土・日・祝日を除く）

6. 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、研究計画書等を総合して行います。連合小児発達学研究科として統一した入学試験は以下のとおりです。

（1）学力検査は、外部の外国語（英語）試験のスコア及び口述試験で行います。

①外部の外国語（英語）試験スコア等の準用

外部の外国語（英語）試験のスコア等を準用し、学術論文作成に必要な素養等を考査します。

準用するスコア等は、次の試験のものになります。なお、このスコア等の成績によって不合格とはなりません。

Cambridge English、GTEC[※]、GTEC CBT[※]、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT[※]、TOEIC L&R、TOEIC S&W、英検、英検 CBT（令和3年3月以前の日付のもの）、英検 S-CBT（令和3年4月以降の日付のもの）（※自宅受験のスコアは対象外です。但し、TOEFL iBTの自宅受験については対象とします。）

②口述試験

出願書類に基づき、将来どのような姿勢で子どものこころの課題に取り組むのか、志望理由及び将来の抱負等について質疑し、同課題に関する知識、意欲、熱意、将来性、コミュニケーション力等を評価し、考査します。

試験は、20分程度の予定です。

（2）提出された書類等により考査します。

7. 口述試験の日時及び場所

【第1回入試】

日 時：令和7年9月21日（日）14時00分～（13時00分集合）

場 所：大阪大学医学部医学科講義棟（予定）

【第2回入試】

日 時：令和8年1月25日（日）14時00分～（13時00分集合）

場 所：大阪大学医学部医学科講義棟（予定）

※ 試験場に入場する際、本人確認のため受験票を提示してください。

8. 合格者発表

次のとおり合格者の受験番号をホームページに掲載します。電話による可否の照会には一切応じません。

日 時	場 所
【第1回入試】 令和7年10月6日（月） 13時30分	大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学 連合小児発達学研究科ホームページ (http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/)
【第2回入試】 令和8年 2月9日（月） 13時30分	

※ 出願者には可否通知書を、第1回入試は令和7年10月6日（月）、第2回入試は令和8年2月9日（月）頃に発送します。

9. 入学手続

入学手続は、令和8年3月上旬に行う予定です。入学手続関係資料は、合格者に対して令和8年2月中旬頃に、出願時に提出された宛名票記載の住所に郵送する予定です。

入学手続完了者には、3月下旬に入学式、ガイダンス等についての書類を郵送します。

10. 入学料及び授業料

入学料	282,000円（予定）
授業料〔前期・後期共に〕	267,900円（年額535,800円）（予定）

※ 入学手続に必要な経費は入学料のみです。前期分授業料は5月下旬（予定）、後期分は11月下旬（予定）に口座振替により納入することとなっています。

※ 入学料・授業料の金額については変更することがあります。

※ 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※ 国費外国人留学生として入学する者については、入学料は不要です。

11. 留意事項

- （1）出願書類に虚偽の記載があれば、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- （2）障がい等のある者で、受験及び修学に際して特別な配慮を希望する者は、出願時に大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当へ申し出てください。（電話連絡可）
- （3）出願受付後の入学願書等の記載事項の変更は認めません。
- （4）振込まれた検定料は次の場合を除き返還しません。

- ①出願したが、受験資格がなかった場合
- ②出願書類受付期間後に出願書類が到着し、受理できなかった場合
- ③出願書類に不備があり、受理されなかった場合
- ④検定料を払い込んだが、出願しなかった場合
- ⑤検定料を誤って二重に振り込んだ場合

※④、⑤の場合は、返還請求を行っていただきますので、下記までご連絡ください。

【連絡先】大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当

電話：06-6879-3026、3445 E-mail：office@ugscd.osaka-u.ac.jp

- （5）受験のための宿泊施設等の斡旋はしません。
- （6）自動車及び自動2輪車（原動機付自転車を含む）での構内への入構はできません。

12. 安全保障輸出管理について

大阪大学では「外国為替及び外国貿易法」に基づき「大阪大学安全保障輸出管理規程」を定めて貨物の輸出、技術の提供（人の受入を含む）について厳格な審査を実施しています。規制事項に該当する場合は、合格しても入学が認められない場合や、希望する教育が受けられない又は研究が実施できない等の制限がかかる場合がありますのでご注意ください。詳細については、ウェブサイトを参照してください。

（日本語）https://www.osaka-u.ac.jp/ja/research/secur_exp/outline

（英語）https://www.osaka-u.ac.jp/en/research/secur_exp/outline

13. 個人情報の取扱いについて

- （1）出願時に提出された氏名、住所その他の個人情報については、「入学者選抜（出願処理、選抜試験実施）」、「合格者発表」及び「入学手続」等の入試業務を行うために利用します。
なお、入学者については、「教務関係（学籍管理、修学指導）」、「学生支援関係（健康管理、奨学金申請・授業料免除、就職支援等）」及び「授業料収納に関する業務」を行うためにも利用します。
- （2）入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計・分析及び入学者選抜方法の調査・研究のために利用します。
- （3）入学手続の業務を行うにあたり、一部の業務を外部の業者に委託する場合があります。
この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して、出願時に提出していただいた個人情報の全部または一部を提供します。

連合小児発達学研究所の概要

講座名(設置大学):こころの発達神経科学(大阪大学)

【事前面談申込先】 医学系研究科総務課連合研究科担当(5 研究領域共通)

TEL:06-6879-3026,3445 FAX:06-6879-3347

E-mail:office@ugscd.osaka-u.ac.jp

研究領域名: 小児発達神経学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの分子統御機構研究センター TEL・FAX:06-6879-3863 E-mail:office@kokoro.med.osaka-u.ac.jp
担当教員名: 下野九理子 教授、岩谷祥子 助教 (研究内容) 子どものこころの発達には、先天的に組み込まれたプログラムの基盤に、個々の遺伝的素因や、養育者との愛着形成、社会経済的な環境や疾病等による後天的な要因が、複雑に相互作用することにより規定される。例えば、極小未熟児生存児に注意欠如多動症(ADHD)や学習障がい等の発生が高いことや、重度の愛情剥奪体験がある子どもでは発達障がい類似の症状を示すことが知られている。従って、こころの問題だけを子どもの身体や環境から切り離して考えることはできない。さらに発達障がいと診断された場合にも、攻撃性が強い子ども、理解はしているが無言語の子ども、多動が著しく目立つ子ども等々一人一人の特色は異なる。我々は、カテゴリカルに捉えるのではなく、個々の子供の特性を実行機能、認知機能や感覚処理等の脳機能に対応したディメンジョンにおいてとらえ、その発症メカニズム、治療、支援の研究を行う。 我々の領域では、臨床を重視しながら神経科学的な観点から、①個々の子どものこころの発達とその障害について脳画像や認知機能検査等を用いて脳科学的な視点から理解すること、②後天的な環境要因がどのように子どもの発達に影響を及ぼすかを、特に、睡眠との関連に重点をおいて調べることを目指す。また、近年神経炎症が自閉スペクトラム症の発症要因になっているデータが蓄積されてきており、ヒト脳画像と脳組織を用いた神経炎症仮説の検証、並びに、マウスを用いて、組織学的、分子生物学的な手法により、神経炎症がシナプス形成に与える影響の解析を行う。	
研究領域名: 子育て支援学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの分子統御機構研究センター TEL・FAX:06-6879-3863 E-mail:office@kokoro.med.osaka-u.ac.jp
担当教員名: 西村倫子 准教授、山本知加 助教 (研究内容) 近年の子どものこころの問題や発達障がいへの注目により、障がいや課題を抱える子どもとその養育者や家族への支援の必要性が高まってきている。支援の現場においては、子どものこころの発達や親子の相互作用への理解とともに、発達障がいや対応の難しい子どもとその養育者への支援方法の習得が急務とされている。また昨今では子どもの特性のみならず、養育者の状況に応じた支援など、子どもだけでなく、子どもを取り巻く養育者やその家族、および学校へのアプローチ方法の見直しも求められている。 子育て支援学領域では、発達に関わる個人や親子の適応上の問題について、発達障がいをはじめとした子育てにおける課題への支援(ソーシャルスキル・トレーニング:SST など)の開発と有効性評価、相互作用のアセスメント方法の評価を行っていくことで、有効な支援や有効性を規定する要因を解明していくことを目指す。	

研究領域名：分子生物遺伝学	【研究内容に関する問い合わせ】 分子生物遺伝学研究領域 TEL:06-6879-3313(片山教授), 06-6879-3221(岡講師) FAX:06-6879-3313(片山教授), 06-6879-3229(岡講師) E-mail:katayama@ugscd.osaka-u.ac.jp (片山教授) okay@anat2.med.osaka-u.ac.jp (岡講師)
担当教員名：片山泰一 教授、佐藤 真 特任教授(常勤)、岡 雄一郎 講師、三好 耕 助教、藤原悠紀 助教、早川英規 助教、長野清一 特任教授(常勤)、村山繁雄 特任教授(常勤) (研究内容) 近年の遺伝学的研究により、他の器質的疾患と同様、精神疾患においても発症リスクにかかわる脆弱性因子が多数報告されるようになってきた。 本研究領域では、発達障がい、児童期統合失調症、児童期気分障がいなどの主要な児童思春期の精神疾患脆弱性遺伝子を中心に、これら脆弱性因子の機能及び脳と心の発達に及ぼす影響を解剖学的、生化学的、分子生物学的な手法を用いて検討を進め、脳の発達と、発達障がい、児童思春期の精神疾患発症メカニズムを分子レベルおよび神経回路レベルで解明することを目的としている。これら研究を通じて脳と心の発達を科学的基盤に基づいて理解し、発達障がいをはじめとする子どものこころの諸問題に対する予防と対策の確立を目指す。また関連する共同研究講座では、近年の高齢化社会の中で患者数が急増している筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、アルツハイマー病などの神経変性疾患に関し、患者検体や疾患モデルを用いた網羅的・統合的解析により発症機序の解明とそれに基づく新規治療法の開発を目指すとともに、これらの疾患の早期診断と治療効果の予測・判定のためのバイオマーカーの開発を目標とする。	
研究領域名：環境行動小児科学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの分子統御機構研究センター TEL・FAX:06-6879-3863 E-mail:office@kokoro.med.osaka-u.ac.jp
担当教員名：毛利育子 教授、橘 雅弥 准教授、平田郁子 助教 (研究内容) 神経発達症では早期発見・早期療育が発達軌跡を変化させることがよく知られてきているが、子どもの発達の軌跡は環境で変化する。子どもを取り巻く環境については、とくに睡眠が発達や行動に大きく影響する。我々は、睡眠が悪いこと問題行動が相関すること、睡眠を改善させることで、多動・注意の問題など行動の問題が改善することや社会性の発達を促進できることを報告している。一方、授業中に眠る、朝起きられないなどの過眠症状を呈する子どもが増加し、学校では不登校につながることから大きな社会問題になっている。行動評価および終夜ポリグラフ等の生理学的指標を解析することで日本の子どもの睡眠の問題を明らかにし、睡眠を改善することで子どもの能力を最大限に引き出すことを目指す。 また、マウスや培養細胞を用いて、強力な睡眠誘発物質であり炎症メディエーターであるプロスタグランジン D2の神経形態に及ぼす影響を明らかにし、神経発達症発症メカニズムを解明することを目指す。	
研究領域名：生命情報学	【研究内容に関する問い合わせ】 生命情報学研究領域 TEL:06-6879-3604 E-mail:kimura.ryo@ugscd.osaka-u.ac.jp
担当教員名：木村 亮 教授 (研究内容) 近年、自閉スペクトラム症をはじめとする神経発達症の診断や支援を求める受診が急増している。しかし、臨床検査は十分に確立しておらず、依然として面接に基づいた診断と治療が中心を担っており、客観的な生物学的指標(バイオマーカー)が求められている。一方、研究面では欧米を中心にシーケンス技術を活用した探索研究により、発症に関わる遺伝子が多数同定され、これら遺伝情報を診断補助に活用する試みが進められつつある。 本研究領域では、このように急速に進展しつつある遺伝生命情報と機能解析を組み合わせ、神経発達症のバイオマーカー探索や病態解明を目指している。具体的には、臨床検体を使った研究に加え、ゼブラフィッシュを用いた機能解析研究に取り組んでいる。とくに自閉スペクトラム症とは逆の高い社交性を有する希少疾患ウィリアムズ症候群については、国内外の研究者や患者家族と協力した多数の研究を展開しており、表現型に関わる要因を見出し、治療や支援に貢献することを目指している。	

講座名(設置大学):こころの相互認知科学(金沢大学)

【事前面談申込先】 金沢大学医薬保健系事務部学生課医学大学院係(5 研究領域共通)

TEL:076-265-2811 FAX:076-234-4208

E-mail:iyakuhogakusei-kafuku@adm.kanazawa-u.ac.jp

研究領域名: 社会認知生物学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(藤田慶大 准教授) TEL:076-265-2458 FAX:076-234-4213 E-mail:fujita-ky@med.kanazawa-u.ac.jp
担当教員名: 藤田慶大 准教授、辻 知陽 助教 (研究内容) 現代社会が抱える深刻な問題である、「子どもの学習、社会性、行動の障がい」を心が宿る脳の機能障がいととらえて、そのメカニズムを解明するのみならず、「脳を育み機能障がいを克服する方策・診断・治療法」を提案するための教育研究を行う。研究の内容は発達障がい関連遺伝子の探索を行い、それにより、「子どもの学習、社会性、行動の障がい」に関する遺伝子を絞り込み、得られた情報を創薬へ活用していく。また、遺伝子改変技術を使い、自閉症を含む学習、社会性、行動の障がいに関連した遺伝子を改変したマウスを作成し、その行動解析を行うことにより、自閉症関連モデルマウス作成法を確立する。さらに、それらの遺伝子改変動物の脳神経関連分子や脳神経機能の異常を分子イメージング技術を用いて、可視化することにより、新たな画像診断法の確立を目指すと共に脳神経機能の異常のメカニズムを解明し、治療法の開発に繋げる。	
研究領域名: コミュニケーション支援学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(小林宏明 教授) TEL:076-264-5513 FAX:076-264-5510 E-mail:kobah@ed.kanazawa-u.ac.jp
担当教員名: 小林宏明 教授、荒木友希子 教授、吉村優子 教授、田中早苗 助教 (研究内容) 親子間、仲間間、教師—生徒間などのコミュニケーションは、心についての理解、世界についての概念的知識、文法や語彙のシステム、推論や記憶、感情の表出と受容など多様な能力を、総合的に活用することで成り立っている。また、それは言語を含むコミュニケーションのしかたそのもののみならず、社会文化的な慣習、出来事の社会的意味を理解し、確実な相互理解の手法と相互協調を学ぶことに決定的に関与している。発達障がいのある子どもたちは、コミュニケーションに関与する多様な要因の一部あるいは多数に障がいがあり、母子、家族、園や学校、地域などあらゆる場での社会的な学びに困難を示し、それがかれらの社会適応を脅かすのみならず、安定した人格形成をも妨げかねない。本領域は、そうしたコミュニケーションの障がいの発現機構の解明と、子どもと大人あるいは子ども同士のコミュニケーション不全への介入技法の開発をめざす。	
研究領域名: 高次脳機能学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(池田尊司 准教授) TEL:076-265-2856 FAX:076-234-4213 E-mail:tikeda@med.kanazawa-u.ac.jp
担当教員名: 池田尊司 准教授、長谷川千秋 助教 (研究内容) 私たちは、知覚・言語・運動・注意・記憶・感情などそれぞれの脳機能が上手く連携することで、自立した生活を送ることができる。これらの脳機能の発達過程については、技術的制約のために断片的な理解や成人を対象とした研究成果からの類推に留まっており、実態を明らかにする必要がある。本領域では、脳磁図(MEG)・脳波(EEG)・磁気共鳴画像法(MRI)・近赤外分光法(NIRS)・眼球運動・心拍など神経科学や認知心理学の研究手法と行動解析や質問紙を併用し、定型的な発達過程にある脳の特徴や発達障がいのメカニズム解明を目指す。また、既存の脳機能計測技術を超える新しい計測・解析技術の開発も行う。	
研究領域名: 協調運動障害学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(横山 茂 教授) TEL:076-265-2458 FAX:076-234-4213 E-mail:childdev@med.kanazawa-u.ac.jp
担当教員名: 横山 茂 教授、堀家慎一 准教授 (研究内容) 発達障がいを抱える人たちでは、全身性の運動あるいは手先の操作等の微細運動に「不器用さ」が頻繁に認められる。このような発達性協調運動障がいが生じる機序には不明な点が多く、原始反射の正常な消失の遅延、神経興奮伝達・感覚統合の異常など様々な原因が推測されている。本研究領域では、中枢神経系から末梢神経系及び筋組織に至る様々な部位が担う運動機能、大脳の連合機能、脳の左右差、大脳半球間連携など、協調運動障がいの研究に必要な基礎知識を学び、分子・細胞・個体レベルの多様な研究方法を取り入れながら新しい知見が得られるように努める。	

研究領域名：社会神経科学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(菊知 充 教授) TEL:076-265-2856 FAX:076-234-4213 E-mail: childdev@med.kanazawa-u.ac.jp
担当教員名： 菊知 充 教授、廣澤 徹 教授 (研究内容) 人同士の相互作用と社会的意思決定のプロセスを、ニューロイメージング技術等を用いた神経科学と、哲学・心理学・社会学など人文社会科学の両方の観点から統合的に解明する、革新的な研究に挑戦しうる人材を育成する。そこでは、自閉スペクトラム症を代表とする発達障がいを生み出す生物学的要因と社会的要因との関連、自閉症脳と非自閉症脳のインタラクション、脳機能の個人差を媒介とする発達障がいと社会とのかかわり、人間の社会的行動における合理性－非合理性問題、社会経済行動と脳の関連、薬物の脳内作用のこれらに対する影響、および脳機能のエンハンスメントと社会の関連などの解明に取り組む。これらの成熟した脳(大人)と成長途上の脳(子ども)とでの違いもあわせて追究する。したがって本領域の研究は、金沢校の社会認知生物学研究領域、コミュニケーション支援学研究領域、高次脳機能学研究領域との密接な連携のもとに行うこととなる。	

講座名(設置大学):こころの発達健康科学(浜松医科大学)

【事前面談申込先】 浜松医科大学学務課大学院係(3研究領域共通)
 TEL:053-435-2204 FAX:053-435-2233
 E-mail: daigakuin@hama-med.ac.jp

研究領域名：画像生物学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(岩渕俊樹 講師) TEL:053-435-2331 FAX:053-435-2291 E-mail: iwabuchi@hama-med.ac.jp
担当教員名： 尾内康臣 教授(兼)、山末英典 教授(兼)、岩渕俊樹 講師、児島正樹 助教、原田妙子 助教、横倉正倫 助教(兼)、平石博敏 助教(兼)、涌澤圭介 客員准教授 (研究内容) fMRI(機能的核磁気共鳴画像法)や PET(陽電子放出型断層撮影)をはじめとする機能画像法は生体情報を非侵襲的かつ客観的に描出できる優れた特性を持ち、さまざまな病態の診断や治療効果判定の手段として広く普及している。画像生物学では、これらの生体イメージング手法の対象となる脳の機能について学ぶとともに、イメージングによるデータの取得、処理、解析および解釈の方法を習得する。その上で神経発達症および小児神経発達の研究におけるイメージング手法の活用について学習する。	
研究領域名：社会支援学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(千住淳 教授) TEL:053-435-2331 FAX:053-435-2291 E-mail: senju@hama-med.ac.jp
担当教員名： 千住 淳 教授、高貝 就 教授(兼)、奥村明美 助教、川上澄香 助教、岡本 宙 助教、須田桃香 助教、高橋長秀 客員准教授 (研究内容) 発達障がい児・者の支援者は、障がいの特性を正しく理解し、個々の発達段階に応じた適切な支援を選び、実践することがつとめである。社会支援学では、子どもから成人にいたる発達過程の理解に基づいた支援、障がい児・者のおかれた環境に即した支援を学ぶ。また、支援する側への支援(支援者支援)を通して、支援方策の多面性を学ぶ。さらに、医学的診断を含めたアセスメント法、個別支援プログラム作成の仕方、実施方法、効果評価法について学習するとともに、近年の支援方策のトレンドや行政施策との連携についても学ぶ。	
研究領域名：疫学統計学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(土屋賢治 教授) TEL:053-435-2331 FAX:053-435-2291 E-mail: tsuchiya@hama-med.ac.jp
担当教員名： 土屋賢治 教授、長田アビル 助教、桑原 斉 客員教授 (研究内容) 人の発達や行動を研究対象とする場合、発達や行動のどの側面に注目するか、それをどのように客観的に測定するか、対象をいかに的確にサンプリングするか、得られた測定値からどんな科学的事実が演繹されるか、また、研究仮説が科学的に立証されたかなど、順次マクロからミクロに向かう視座を必要とする。疫学統計学では、このような視座を開くため、科学的根拠に基づいた研究デザインの立案、データ解釈の方法といった研究技術論と、統計学的解析法について学習する。	

講座名(設置大学):こころの認知行動科学(千葉大学)

【事前面談申込先】 千葉大学亥鼻地区事務部学務課大学院係(3研究領域共通)

TEL:043-226-2009 FAX:043-226-2857

E-mail:sah5234@office.chiba-u.jp

研究領域名: 認知行動療法学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達教育研究センター(大島郁葉 教授) TEL:043-226-2975 FAX:043-226-8588 E-mail:f_oshima@chiba-u.jp
担当教員名: 大島郁葉 教授、伊藤絵美 客員教授(兼)、沼田法子 講師(兼)、関 陽一 助教、田口佳代子 助教、加藤奈子 助教(兼) (研究内容) 子どもの発達症や不安、抑うつ問題は慢性化して、青年期、成人期まで遷延することが知られている。本講座では、発達症(自閉スペクトラム症・ADHD)、不安症(パニック症、社交不安症など)、強迫症、PTSD、うつ病、神経性過食症、拒食症などの症状に対する環境調整や治療において有効性のある認知行動療法のスキルを学習することを目的とする。さらに、その心理療法を行うためのアセスメント検査のスキルも学習する。	
研究領域名: メンタルヘルス支援学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達教育研究センター(清水栄司 教授) TEL:043-226-2975 FAX:043-226-8588 E-mail:ejji@faculty.chiba-u.jp
担当教員名: 清水栄司 教授(兼)、大溪俊幸 教授、濱田洋通 教授(兼)、花澤 寿 教授(兼)、杉田克生 客員教授(兼)、堀清一郎 客員教授(兼)、浦尾悠子 講師 (研究内容) 児童思春期には各発達段階においてそれぞれ特徴的な心の発達課題が存在すると考えられている。不安や抑うつ、摂食障がい、発達障がいなどのメンタルヘルス(心の健康)の問題について発達課題に応じた特性を理解し、早期発見、早期介入の観点から、個人あるいは集団に対する認知行動療法も含めて、どのような支援を現場で行うことができるか研究する。	
研究領域名: 認知行動脳科学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達教育研究センター(平野好幸 教授) TEL:043-226-2975 FAX:043-226-8588 E-mail:hirano@chiba-u.jp
担当教員名: 平野好幸 教授、小島隆行 客員教授(兼)、松澤大輔 客員教授(兼)、廣瀬素久 助教(兼)、久能 勝 助教(兼)、大田淳子 助教(兼)、ブーサル チャタクリ リトゥ 助教、吉田斎子 助教 (研究内容) 不安症(社交不安症、全般不安症、パニック症など)、うつ病、強迫症、摂食症(神経性やせ症、神経性過食症)、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症などの精神疾患における病態理解や治療メカニズムを解明するために、MRI などの非侵襲的脳画像検査、バイオサンプル、神経心理検査や質問紙を用いた研究を行う。	

講座名(設置大学):こころの形成発達科学(福井大学)

【事前面談申込先】 福井大学松岡キャンパス学務課入試担当(3 研究領域共通)

TEL:0776-61-8830 FAX:0776-61-8163

E-mail:m-nyushi@ml.u-fukui.ac.jp

研究領域名: 情動認知発達学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(水野賀史 准教授) TEL:0776-61-3111(ex.2431) FAX:0776-61-8707 E-mail:mizunoy@u-fukui.ac.jp
担当教員名: 水野賀史 准教授、濱谷沙世 助教、山下雅俊 助教、寿 秋露 助教 (研究内容) 本領域は、主に MRI を用いてヒトの脳の構造や機能を可視化し、注意欠如多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)などの神経発達症の神経基盤を明らかにすると共に、臨床に資するバイオマーカーの開発を目的として研究を行っている。また、神経発達症の神経基盤に対するトラウマや養育環境の影響の解明や、新たな神経発達症支援法の確立に向けた研究にも取り組んでいる。 このような研究を遂行するためには、ひとつの分野に限るのではなく、小児発達学、精神医学、放射線医学、心理学、神経科学、情報科学、教育学などの幅広い分野における高度な知識、技術が必要となる。そのため、様々な分野、背景をもった研究者や、福井大学内のみならず、国内外の他の研究機関と共同研究を行うことを積極的に推進している。	
研究領域名: 発達環境支援学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(水野賀史 准教授) TEL:0776-61-3111(ex.2431) FAX:0776-61-8707 E-mail:mizunoy@u-fukui.ac.jp
担当教員名: 水野賀史 准教授、倉田佐和 助教 (研究内容) 子どもたちのこころの健康の維持は、21 世紀の最も大きな課題の一つとして注目されつつある。近年、児童虐待や子どもの心身症、発達障がいなど、いわゆる“こころ”の問題解決への社会的要請が強まっている。児童精神科領域とされるこれらの問題は、実際には精神科や小児科の合間にあり、未解決の問題が山積している。特に昨今、医療機関への受診が急増している発達障がいに対しては、その実態と要因を探ることは急務である。 子どものこころの発達は、先天的・後天的様々な要因が複雑に絡み合う中で規定されているが、その中で、我々は子どもの脳に関わる影響に注目している。ヒトの脳を可視化する技術が進歩し、非日常的または日常的な様々なトラウマ体験の生物学的影響が脳にもたらされることが解明されてきた。 “こころ”の問題解決を実現するために、脳機能イメージングや神経心理学的手法を駆使した、脳科学を基盤とする学際的な研究を推進する。発達障がいの生物学的なリスク要因を早い段階で認識すれば、予防や治療へつながる可能性が高まる。脳が外界環境の強い刺激により影響を受けるという事実を前提に、臨床医・基礎研究者・地域が連携する中で研究を進め、教育・療育方法の新たな開発を進める。さらに、ICT 端末が与える子どもへのストレスなど、環境が小児のこころの発達に及ぼす影響についても多面的な研究を展開し、難治とされる脳機能疾患の治療・予防を可能にするために取り組む。	
研究領域名: 脳機能発達学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(松崎秀夫 教授) TEL:0776-61-8803 FAX:0776-61-8804 E-mail:matsuzah@u-fukui.ac.jp
担当教員名: 松崎秀夫 教授、廣澤愛子 教授、岸 俊行 教授、大西将史 准教授、藤岡 徹 准教授、謝 敏かく 助教、國石 洋 助教 (研究内容) 分子・細胞レベルでの解析を中心に脳機能の発達の仕組みの解明、ひいては行動レベルの理解を目指した研究を展開する。 また、暴力経験や不適切な教育に関わる実証的研究、児童支援プログラムの開発、神経発達症児者の認知機能研究も進める。分子や細胞レベルのメカニズム解明が進むと、脳の働きを具体的に理解できるようになる。そのため「子どものこころの諸問題」を脳の仕組みの破綻として捉えることで、発達期特有の疾病もしくは障がいの新たな理解や従来にない診療手段の開発に結びつくことが期待される。本研究領域では、以下の研究のテーマで研究を遂行する。 (1) 自閉症診療に応用可能な生物学的マーカーの探索研究。自閉症者から得られる血液検体や自閉症者の脳画像の所見を基に、疾患特異性のある体内分子を探索し、診療への応用を検討する。 (2) モデル動物を用いた自閉症の病態研究。(1)での所見を再現するモデル動物を作製して、病態メカニズムの理解を進める。主に自閉症にみられる血中エネルギー代謝・脳内セロトニン伝達系の特異的な異常に焦点を当てた研究を展開している。 (3) 暴力の連鎖に関わる実証的研究。被暴力経験のある児童が有する「潜在的暴力性」を緩和する治療プログラムを開発する。 (4) 様々な支援を必要としている子どもに対する支援プログラムの設計、開発を行い、プログラムの実践、効果測定を実施する。 (5) エデュケーション・マルトリートメントの生起・維持メカニズム及びその支援と予防に関する実証的研究。 (6) 自閉スペクトラム症や限局性学習症を中心とした神経発達症児者の認知機能に関する研究。	